

## ■事業名 亥鼻実験教室

- 1 主催  
千葉大学医学部附属病院臨床試験部
- 2 開催日時  
平成 25年 11月2日(土)13:30~16:00
- 3 開催場所  
千葉大亥鼻イノベーションプラザ
- 4 参加者数  
18名(市内小学校5年生・6年生・中学生)
- 5 プログラム  
臨床試験を疑似体験する実験授業。  
激しい運動をした後に疲労から効果的に回復する方法を調べました。  
千葉大学の学生が授業をサポート。  
臨床試験部の研究者が創薬の話をしました。
- 6 講師  
千葉大学医学部附属病院 横尾 英孝先生



亥鼻実験教室

平成 25年11月2日(土) 13:30~16:00  
千葉大亥鼻イノベーションプラザ

市内の小学5年生・6年生・中学生対象 先着16名限定 参加費無料  
講師：千葉大学医学部附属病院臨床試験部 横尾英孝先生

からだの仕組みを知ろう ~君も研究者だ~

臨床研究を疑似体験！  
運動すると人間の身体はどのように変化するのだろうか？  
身体にとってよい運動を君の力で発見しよう！  
千葉大学の学生が君の研究をサポートします。  
さらに、臨床研究の研究者が薬をつくる仕事の話をします。

お問い合わせ・お申し込み 申込期限：10月29日(火)  
亥鼻イノベーションプラザ  
TEL：043-221-0981 FAX：043-221-0982

主催：千葉大学医学部附属病院臨床試験部 後援：千葉市



## ■開催報告

亥鼻実験教室は、平成 21 年度から5回目を迎えました。千葉大学亥鼻祭での施設公開にあわせて実施される、毎年好評の講座です。

今年度説明してくださったのは、横尾英孝先生です。附属病院や臨床試験部の紹介がありました。

次に、参加者が4人ずつグループを作り、各グループ内で自己紹介を行いました。

その後、臨床試験についての説明がありました。馴染みのない「臨床試験」や、「被験者」という用語の解説もしていただき、ビデオを使ってわかりやすい説明がありました。

臨床試験の重要性の説明後、今回の実験の説明に入りました。

今回の実験では、運動をした後の効果的なクールダウンの方法を調べるために、運動後に①歩く、②寝る、③なわとび、④冷やす、のどれが一番効果的なのかを調べました。調べる方法は、脈拍数と乳酸値の測定です。

子どもたちは、各グループ内で、A 時計係、B 指示係、C 記録係、D 器具係の4つの役割を分担して、グループごとに異なるクールダウンの方法を調べました。

実験に先立ち、子どもたちが、今回の実験の被験者である運動部に所属する千葉大学生に実験内容を詳しく説明し、被験者の同意(インフォームド・コンセント)を取りました。インフォームド・コンセントが取れなければ臨床試験はできないので、重要なプロセスになります。

---

まず、子どもたちの指示で、被験者の通常時の脈拍と血糖値を計測した後、もも上げ 50 秒という激しい運動を行います。ここで再び脈拍と血糖値を計測し、その後、それぞれのクールダウンを 5 分間実施します。クールダウン後に、もう一度脈拍と血糖値を計測しました。

全ての計測が終わったら脈拍と血糖値の変化をグラフにして、どの方法が一番効果的なクールダウンか実験結果をみんなで評価しました。



その後、横尾先生から臨床試験参加のメリットとデメリットの紹介がありました。臨床試験部が作成した「臨床試験の歴史」という資料を紹介され、横尾先生から臨床試験の必要についてのお話がありました。臨床試験は薬の開発に不可欠な、とても重要なものです。

参加者の皆さんに臨床試験や科学に興味をもっていただき、閉講となりました。